

北川正恭 早稲田大学 名誉教授



おはようございます。

私は、相馬市復興会議顧問会議の座長として、復興に携わっておりますが、立谷相馬市長とは10年以上前から地方自治の在り方について、一緒に勉強会をしておりました。

そのような中、東日本大震災が発生しました。現場では復旧・復興に向けて本当に頑張っていました。災害対応で見落としてしまうことがないように広い立場で忌憚のない意見を交換

できるような顧問会議を結成したいということで、そのメンバーに入るよう声をかけていただき、それ以来ずっとお付き合いをさせていただいております。

本日、お集まりいただいております皆さんの復興に向けたご尽力は、本当に尊いものがあると思っております。震災から5年間、二度と死者を出さないというコンセプトのもとに、大変なご苦勞をされて、現場の皆さんのご努力で随分と成果を上げられたことと思います。その1つの成果が、昨日と今日のこのシンポジウムとして実ってきたのだと、感慨一入のものを感じているところであります。

中央集権の時代から地方分権の時代になって、集権を分権してくださいというだけではなく、地域自らが創生をしていこうという気概や決意がないと、新しい日本を起すことはできません。この震災によって、新しい日本を起すために必要とされる一番の源が覚醒されてきたのではないかと考えております。復旧、復興も大切ですが、それを超える新しい力が必要です。このシンポジウムは、新興の相馬地方、東北地方をつくるために、また次なる5年間、あるいは50年間に向けた取組みを、日本国内のみならず、世界に発信することになると思っております。

熊本においても、この東日本大震災における相馬地方の取組みや教訓を踏まえて、安心できる九州、熊本をつくることに繋がるように、そして、世界における放射線の問題についても、エビデンスやビッグデータあるいは知見に基づいて的確な判断をして、的確に対応していくための見本となっただけならば、顧問会議と一緒に勉強させていただいている私たちにとっても、地方創生に向けた取組みそのものの経験が活かされるのではないかと考えております。

本日も、日本あるいは世界的な知見者にお越しいただいております。放射線や子どもの健康に関する研究や取組みについて、是非、日本中に、世界中に広めていただき、このシンポジウムにお集まりの皆さんがこれからの日本を地域から変えていく、あるいは1つの経験としてこれを活かしてビッグなチャンスにしていく、そのようなことを再確認していただけるような2日間になればと思っております。

本シンポジウムの成功を心からご祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

